

給食センター

運営審議会だより

令和5(2023)年 4月14日

運営審議会会長：山上 真哉

記録担当：六小・七小

令和4(2022)年度 第5回 国立市立学校給食センター運営審議会

日時	令和5年2月22日(水) 午後2時～午後3時10分
場所	国立市立学校第一給食センター2F大会議室
委員	出席13名
事務局	3名(土方給食センター所長、宮本主査、久保主査)※敬称略
議題	(1)事業報告について[資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4] (2)学校給食の収支状況について(12月31日現在)[資料2] (3)令和5年度事業計画について[資料3] (4)その他



議事録及び資料は
市のwebサイトで

報告事項	(1)「(仮称)国立市立学校給食センター」食育ビジョン(素案) (2)国立市立学校給食センター整備運営事業計画の進捗状況について
------	---

議題(1) 事業報告について

▶前回会議以降(11/18～2/22)の主な出来事を報告

[資料1-1] 令和4年度事業報告より(抜粋)

- 11/24 第二小学校5年2組の「鱈の味噌焼」に異物(髪の毛)が混入
- 12/1 学校給食食材等の放射線物質の測定検査および産地について(お知らせ)配布
- 12/6 給食センター見学(第一小学校2年生)
- 12/6 第四小学校3年1組の「ほうとううどん」に異物(醤油容器の蓋)が混入
- 12/13・14 給食センター見学(第五小学校2年生及びつくし学級)
- 12/14 第三中学校2年4組の「春雨スープ」に異物(かまぼこ包装袋)が混入
- 12/22 教育支援室さくら(中)への試験的給食提供、第二学期給食終了
- 1/6・10 学期前打ち合わせ及び保健所の衛生講習会(6日学校配膳員、10日調理員)
- 1/11 第三学期給食開始
- 1/24 くにとち図書館との絵本を題材にしたコラボ給食(30日まで)
- 1/26 第四回運営審議会(視察)
- 1/31 教育支援室さくら(中)への試験的給食提供
- 2/2 「エコール辻東京」の学生とコラボ給食(小:15,28日、中:2,8,9,28日)
- 2/3 学校給食食材等の放射線物質の測定検査および産地について(お知らせ)配布
- 2/13 給食費監査(令和4年度9月1日～12月31日分)

▶牛乳・給食の放射能測定結果

[資料1-2][資料1-3][資料1-4]学校給食食材等の放射性物質の測定検査および産地について
(12月～2月分) より

- ・給食センターによる11～2月の給食・牛乳測定の結果、いずれも不検出(検出限界値未満)
- ・株式会社同位体研究所による検査にて、まいたけ(11月30日報告)、蓮根(2月2日報告)について放射性セシウム137を微量検出したため、使用を中止し、献立を変更。

【委員からの主な質問や意見】抜粋

- 質問1：教育支援室さくらへの試験的給食提供はいつまでか。また、来年度の予定を知りたい。
事務局：実施主体は教育指導支援課。教育指導支援課の統括指導主事と教育支援室長が話し合いを重ねている。給食センターとしては応援体制を取っていく形になる。
- 質問2：エコール辻東京とのコラボ給食を子どもが楽しみにしている。実施に感謝している。
事務局：エコール辻東京の学生にも喜んでいただけたので今後も継続的に実施したいと考えている。学生も2時間以内という限られた調理施設で作ることや小中合わせて5000食の多種多様な年齢に対応する味付けで作る難しさなど勉強になったと報告いただいている。
- 質問3：1月10日の異物混入対策研修の具体的な内容とは。
事務局：多摩立川保健所の方に来ていただき、事件が起こる前のヒヤリハットに関する説明を受けた。説明後(3学期から)、発生報告書をその都度書くようにした。
- 質問4：2022年度に異物混入が10回も起きたのはなぜか。
事務局：調理員の人手不足や普段の仕事上での慣れなどが複合的に重なり合ったことも一因。1月に仕切り直し、意識を高めており、現在混入は起きていない。
- 質問5：報告を受けたヒヤリハットの件数、報告後の対策を知りたい。
事務局：3学期のヒヤリハット発生報告書は14枚。報告書には原因と、自分で考える対策を書かせ、実施を徹底するようにしている。
- 質問6：学校給食の放射性物質の測定検査をやめるのは心配だが、今後も続けてくれるのか。
事務局：賛否両論意見がある。慎重な議論が必要だろうというのが教育委員会の統一見解。今後やめる見解は庁内で示されていない。

異物混入対策について

運営審議会 学識経験者/内藤 義和 氏(多摩立川保健所)

ヒヤリハットを含め情報収集し、調理工程のどの辺で異物混入が起きやすいのか見える化していくことで、陥りやすい点を重点的にチェックでき、異物混入を抑止できるようになっていく。事務局の方から、今回の異物混入を含め様々な取組がなされているのは非常良いこと。ぜひデータをたくさん収集して、効果的な対策につなげていただければと思う。

- 意見1：異物混入について、目視確認の他に声出し確認も検討してほしい。
事務局：声出し確認あるいは指さし確認は非常に大切と認識している、今後参考にしたい。
- 意見2：原因と対策を本人だけではなく、周りにも確認し挙げた対策が理にかなったものか確認もしていただきたい。
事務局：わかった段階で朝昼の打ち合わせ時に情報共有をしているが再度徹底したい。
- 意見3：新給食センターでも、再発防止の取り組みを審議会で共有する仕組みは徹底してほしい。
事務局：新センターの統括責任者相当の方にも運営審議会に参加、情報提供は継続していく形になろうかと思う。

議題(2) 学校給食費収支状況について

▶令和4年9月1日～令和4年12月31日までの学校給食費の収支状況を報告

[資料2] 令和4年度学校給食費収支状況（令和4年9月1日～12月31日）より(一部抜粋)

収入

(単位：円)

区分	調定額	不能欠損額	収入額	未収入額	摘要
給食費	191,846,418	0	181,541,387	10,305,031	94.63%
現年度給食費	183,428,997	0	181,249,024	2,179,973	98.81%
過年度給食費	8,417,421	0	292,363	8,125,058	3.47%
前年度繰越金	4,776,793	0	4,776,793	0	
雑入	53,421	0	53,421	0	廃油売却収入等
補助金	10,768,000		10,768,000		学校給食費物価高騰 対応補助金
合計	207,444,632	0	197,139,601	10,305,031	

支出

(単位：円)

区分	支出額	摘要
主食購入代	22,416,819	内訳は資料2 参照※
副食購入代	116,895,884	〃
牛乳購入代	38,374,697	〃
調味料購入代	6,868,701	〃
合計	184,556,101	

合計

(単位：円)

収入合計	197,139,601
支出合計	184,556,101
差引残額	12,583,500

資料2は国立市ホームページ [令和4年度市立学校給食センター運営審議会／国立市ホームページ \(city.kunitachi.tokyo.jp\)](http://city.kunitachi.tokyo.jp) または本紙1ページ掲載のQRコードより確認できます。

▶会計監査報告

- ・2月13日（月）10:00より第一給食センター会議室において監査実施。
- ・令和4年9月1日から12月31日までの学校給食費の収支書類と証拠書類を監査し、帳簿および預金通帳等を照合した結果、適正に処理されていることを認める。

議題(3) 令和5年度学校給食センターの事業計画等について

○給食の充実 [資料3]

- ・くにたち図書館とのコラボ給食など今後もコラボ給食を企画していく。
- ・2学期から給食ステーションが稼働するに当たり、アレルギー対応食、保温性の高い食器の使用や地場野菜のより積極的な活用を進める。

○食物アレルギーへの対応

- ・現在、校長先生をはじめとするアレルギー対応食に関連する学校関係者や庁内職員による協議会の立ち上げを進めている。

○食育の推進

- ・各学校が行う「現給食センター及びくにたち食育推進・給食ステーションの見学及び栄養士・調理員などによる講話」を積極的に受け入れていきたい。
- ・1学期に過去55年間において、現在の給食センターで給食を喫食された方への「思い出給食試食会」を企画したいと考えている。

【委員からの主な質問や意見】抜粋

質問1：新センターで乳、卵を除去したアレルギー対応食のメニューがあれば共有してほしい。

回答1：いま想定しているのは、新しい給食センターにある3つの調理ラインでアレルギーのないラインを使って調理し提供する。アレルギー対応食独自で毎日違うメニューの提供は考えていない。

質問2：「地場野菜の積極的な活用」の具体的な目標値とは。

回答2：積極的に若手農家の方と話し合いを進めている。例えば栄養士や若手農家が相互に作って欲しい野菜やそれに合う献立を考えていける信頼関係を生み育てていければ。現在は地場野菜使用が18%程度だが気持ちとしては30%台に持っていきたい。

質問3：「『くにたちの学校給食 食育ビジョン』に基づき、特に各部署と連携」とはどの部署を想定しているか。

回答3：例えば、ごみ減量課…使い切りレシピや子育て支援課の離乳食講習会、高齢者支援課ならオーラルフレイルの関係などを想定。長い目で見ていきたい。

質問4：「学校を始め地域への『出向き・出歩く・身近に感じていただける』栄養士集団の確立準備」とはどのような構成メンバーを集めて、どのような規模で行うのか。

回答4：栄養士が今は多忙で実施できていない企画、学校や地域に出向くなどを考えている。各学校で栄養士が講話するとその日の残菜率が非常に減るなど効果があるため。

質問5：給食費の収納率を100%により近づけるためのプランとは。

回答5：収納率は令和2年、令和3年と続けて過去10年間の収納率を上回る成果を上げている。現時点では未収納家庭に対して直接の訪問、督促状の紙の色を変更する、督促状の表題を「特別警告」とするといった工夫を実施しており、今後はそれに加え、督促状の発出を早めに行うなどの対策を継続して行っていくことで収納率向上につなげる考え。

質問6：施設設備の維持について。老朽化が進んだ状況で設備が壊れたがゆえにメニューが土壇場で変わったことや別のもので代用したなどの事例は年間どのくらいあるか。

回答6：メニュー変更の記憶はないが、機械が壊れる事象は毎週のようにある。ボイラーやスチームコンベクションも壊れたなど。いつ壊れてもおかしくない状態が続いているため、保守点検をしっかりとやりながらも使用している。

意見1：調理員が普段気になっている機械の調子も聞いて、改善をお願いしたい。

回答1：朝夕打ち合わせ時に機械の具合についても聞こうと思う。

議題(4) その他

【委員からの主な質問や意見】

質問1 長期休業後の給食開始日と終了日は市内全校で揃えることは可能か。

回答1 中学校は給食開始日と終了日がほぼ一緒。給食の回数が決まっているので校長会で開始終了時期を極力揃えるように話をしていく。各校事情が違うので一律には難しい。

令和4年度 第6回 国立市立学校給食センター運営審議会 6月22日(木)14時～